

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）農学研究科農学専攻（M）

【設置の趣旨・目的等】

1. 養成する人材像、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）について、以下の点を明確にするとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

（1）設置の趣旨等を記載した書類（本文）の「1. 設置の趣旨及び必要性 2）農学研究科の必要性」において、本研究科設置の背景として、「『農』『食』『栄養』はそれぞれ密接に繋がっていることから、そのプロセスに精通し、人々の健康維持・増進、医療のための栄養指導・栄養管理や食育のみならず、地域社会や持続可能な社会の実現に貢献できる専門人材、さらには、消費者が求めている『食』の変化や『栄養』の情報を『農』に還元することのできる専門人材が求められている」と説明するとともに、教育課程においても一定の「栄養」に関する科目が配置されていると見受けられる。一方で、養成する人材像には「『食』と『農』に関わる高度な専門知識・技術を修得し、・・・研究能力と実践力を備えた高度専門職業人」を掲げており、「栄養」に関する記載が見受けられないことから、本課程の養成する人材像が、本農学研究科の必要性の説明や教育課程と整合し、妥当なものであるのか疑義がある。このため、これらの点を踏まえつつ、本課程の養成する人材像に共通して求める資質・能力等を明らかにした上で、ディプロマ・ポリシーが妥当であることを説明するとともに、必要に応じて関係する記載を適切に改めること。【研究科共通】

（2）（1）のとおり、本課程の掲げる養成する人材が身に付けるべき資質・能力が判然としないことから、ディプロマ・ポリシーの妥当性やその整合性を判断することができない。このため、（1）への対応を踏まえて、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

（3）（1）及び（2）のとおり、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーの妥当性やその整合性を判断することができないため、示されたカリキュラム・ポリシーが妥当なものであるかを判断することができない。このため、（1）及び（2）への対応を踏まえ、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーに整合したカリキュラム・ポリシーが適切に設定されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

（4）アドミッション・ポリシーについて、関係する審査意見への対応を踏まえ、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を担保した上で、妥当なものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

（是正事項）・・・・・・P3

【教育課程等】

2. 審査意見1のとおり、養成する人材像及び3つのポリシーの妥当性について疑義があるため、教育課程全体が妥当であるとの判断をすることができないことから、「栄養」に係る資質・能

力をすべての学生に対し求めるものであるのか、該当する一部の領域を専攻する学生に求めるものであるのかを明確にし、本課程の教育課程が適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的に担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

【研究科共通】

(是正事項) P6

【入学者選抜】

3. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「7. 入学者選抜の概要」において、10月入学を実施することを示しているが、10月入学の学生に対する研究指導計画や教育課程を踏まえた履修モデル等のスケジュールが示されておらず、本課程に入学する全ての学生に対して、適切なカリキュラムが提供され、研究指導が実施されるのか判断することができない。このため、設置の趣旨等を記載した書類(資料)で示された「資料4 カリキュラムマップ及び履修モデル」との整合性を踏まえつつ、「資料6 研究指導・審査スケジュール」等の10月入学の場合の資料を示しながら、10月入学の学生に対する入学前から修了までの研究指導を含めた履修指導に当たっての体制や対応等について明確に説明すること。【研究科共通】

(是正事項) P8

4. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)において、アドミッション・ポリシーとして「専門分野の研究に必要な外国語能力および他者との確かな議論ができるコミュニケーション能力を有している」ことを掲げていることから、入学者選抜において一定の外国語能力を評価するものと見受けられ、「(3) 出願資格」においては、「書類審査に必要な『TOEIC』スコアを提出できる者」としていることから、「社会人の取扱い」を含め、TOEIC スコアにより外国語能力を測ることとしていると見受けられる。一方で、「(4) 入学者選抜の方法等」の説明においては、一般入試の「書類審査」の項目として TOEIC スコアを求めることを示す表の注釈に「社会人は「TOEIC」スコアの提出は不要」としているほか、設置の趣旨を記載した書類(資料)の資料18「アドミッション・ポリシーと入学者選抜の方法の関連図」においても、一般入試の社会人・留学生の書類審査欄にも TOEIC スコアについては「社会人は不要」と記載されていることから、一定の外国語能力を持たない社会人の入学を想定していると思われ、そのような学生に対する学修支援についての説明もなく、アドミッション・ポリシーに基づく適切な入学者選抜等となっているか疑義がある。このため、アドミッション・ポリシーに整合した入学者選抜方法や出願資格等となっていることについて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(改善事項) P9

【教員組織】

5. 教員資格審査において、「不可」や「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(是正事項) P11

【設置の趣旨・目的等】

1. 養成する人材像、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）について、以下の点を明確にするとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(1) 設置の趣旨等を記載した書類（本文）の「1. 設置の趣旨及び必要性 2) 農学研究科の必要性」において、本研究科設置の背景として、『農』『食』『栄養』はそれぞれ密接に繋がっていることから、そのプロセスに精通し、人々の健康維持・増進、医療のための栄養指導・栄養管理や食育のみならず、地域社会や持続可能な社会の実現に貢献できる専門人材、さらには、消費者が求めている『食』の変化や『栄養』の情報を『農』に還元することのできる専門人材が求められている」と説明するとともに、教育課程においても一定の「栄養」に関する科目が配置されていると見受けられる。一方で、養成する人材像には「『食』と『農』に関わる高度な専門知識・技術を修得し、・・・研究能力と実践力を備えた高度専門職業人」を掲げており、「栄養」に関する記載が見受けられないことから、本課程の養成する人材像が、本農学研究科の必要性の説明や教育課程と整合し、妥当なものであるのか疑義がある。このため、これらの点を踏まえつつ、本課程の養成する人材像に共通して求める資質・能力等を明らかにした上で、ディプロマ・ポリシーが妥当であることを説明するとともに、必要に応じて関係する記載を適切に改めること。【研究科共通】

(2) (1) のとおり、本課程の掲げる養成する人材が身に付けるべき資質・能力が判然としないことから、ディプロマ・ポリシーの妥当性やその整合性を判断することができない。このため、(1) への対応を踏まえて、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(3) (1) 及び(2) のとおり、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーの妥当性やその整合性を判断することができないため、示されたカリキュラム・ポリシーが妥当なものであるかを判断することができない。このため、(1) 及び(2) への対応を踏まえ、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーに整合したカリキュラム・ポリシーが適切に設定されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(4) アドミッション・ポリシーについて、関係する審査意見への対応を踏まえ、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を担保した上で、妥当なものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(対応)

(1) 審査意見にて指摘の通り、「設置の趣旨等を記載した書類」の農学研究科の必要性の説明において、本研究科の養成人材像や3ポリシーと整合しない記載であったため、当該部分の説明を以下の通り修正する。

設置の趣旨等を記載した書類「1. 設置の趣旨及び必要性 2) 農学研究科の必要性」(4 ページ)

新	旧
<p><u>食品栄養科学分野は、食物の人体内での生理や機能を研究し栄養学の視点も含めて人々の健康増進に貢献する学問分野であることから、生産に関わる「農」や「食」と密接に関連している。</u></p> <p>近年、特に栄養の医療的な側面の重要性が再認識され、病中、病後における食事療法だけでなく、健常者が日常生活から栄養面を考慮した食生活を送ることで、様々な慢性的な疾病を回避し、国民の健康増進につなげることが<u>期待</u>されている。そこで、人々の健康維持・増進、医療のための栄養指導・栄養管理や食育のみならず、地域社会や持続可能な社会の実現に貢献できる専門人材、さらには、消費者が求めている「食」の変化や<u>栄養</u>の情報を「農」に還元することのできる専門人材が求められている。</p> <p>また、少子高齢化の到来、食生活の乱れや生活習慣病の増加、高齢者の低栄養等の栄養・食生活の問題が山積し、その対策が喫緊の課題となっている。</p>	<p>食品栄養学分野では、近年、特に栄養の医療的な側面の重要性が再認識され、病中、病後における食事療法だけでなく、健常者が日常生活から栄養面を考慮した食生活を送ることで、様々な慢性的な疾病を回避し、国民の健康増進につなげることが<u>社会全体で求められている。</u></p> <p><u>「農」「食」「栄養」はそれぞれ密接に繋がっていることから、そのプロセスに精通し、人々の健康維持・増進、医療のための栄養指導・栄養管理や食育のみならず、地域社会や持続可能な社会の実現に貢献できる専門人材、さらには、消費者が求めている「食」の変化や「栄養」の情報を「農」に還元することのできる専門人材が求められている。</u>また、少子高齢化の到来、食生活の乱れや生活習慣病の増加、高齢者の低栄養等の栄養・食生活の問題が山積し、その対策が喫緊の課題となっている。</p>

本研究科及び本課程は、農業生産科学領域、応用生物科学領域、食品栄養科学領域、食農ビジネス学領域の4領域から構成され、各領域で専攻する専門領域は異なるものの、「食」と「農」という中心の理念は不動かつ共通であり、全ての領域において、「食」と「農」の側面からの教育と研究を行う。改定文では、食品栄養科学分野が「食」「農」と密接に関連することを冒頭に追記した。

従って、本課程(M)の養成する人材像「自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や企業、公共団体などの発展に貢献するための研究能力と実践力を備えた高度専門職業人」とディプロマ・ポリシーは整合しており、妥当であると考えているので、本課程の養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに示した求められる資質や能力に変更はない。

(2) 上記の審査意見1-(1)に対する回答で説明した通り、本課程の養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに示した求められる資質や能力に変更はない。それゆえに、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係性についても変更はなく、適切に整合していると考えている。養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係は、当初の申請において「設置の趣旨等を記載した書類」の添付資料1(M)で示した通りであるが、当該添付資料を本紙に添付する【別添資料1】。

(3) 上記の審査意見 1-(1) に対する回答で説明した通り、本課程の養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに示した求められる資質や能力に変更はない。それゆえに、その資質と能力を養うカリキュラム・ポリシーについても変更はない。養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの関係は、当初の申請において「設置の趣旨等を記載した書類」の添付資料 1 (M) で示した通りであるが、当該添付資料を本紙に添付する【別添資料 1】。

(4) 上記の審査意見 1-(1) に対する回答で説明した通り、本課程の養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに示した求められる資質や能力に変更はない。それゆえに、学生受け入れの方針であるアドミッション・ポリシーについても変更はない。養成する人材像と 3 ポリシーの関係は、当初の申請において「設置の趣旨等を記載した書類」の添付資料 1 (M) で示した通りであるが、当該添付資料を本紙に添付する【別添資料 1】。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (4 ページ)

新	旧
<p>食品栄養科学分野は、<u>食物の人体内での生理や機能を研究し栄養学の視点も含めて人々の健康増進に貢献する学問分野であることから、生産に関わる「農」や「食」と密接に関連している。</u></p> <p>近年、特に栄養の医療的な側面の重要性が再認識され、病中、病後における食事療法だけでなく、健常者が日常生活から栄養面を考慮した食生活を送ることで、様々な慢性的な疾病を回避し、国民の健康増進につなげることが期待されている。<u>そこで、人々の健康維持・増進、医療のための栄養指導・栄養管理や食育のみならず、地域社会や持続可能な社会の実現に貢献できる専門人材、さらには、消費者が求めている「食」の変化や<u>栄養</u>の情報を「農」に還元することのできる専門人材が求められている。</u></p> <p>また、少子高齢化の到来、食生活の乱れや生活習慣病の増加、高齢者の低栄養等の栄養・食生活の問題が山積し、その対策が喫緊の課題となっている。</p>	<p>食品栄養学分野では、近年、特に栄養の医療的な側面の重要性が再認識され、病中、病後における食事療法だけでなく、健常者が日常生活から栄養面を考慮した食生活を送ることで、様々な慢性的な疾病を回避し、国民の健康増進につなげることが社会全体で求められている。</p> <p><u>「農」「食」「栄養」はそれぞれ密接に繋がっていることから、そのプロセスに精通し、人々の健康維持・増進、医療のための栄養指導・栄養管理や食育のみならず、地域社会や持続可能な社会の実現に貢献できる専門人材、さらには、消費者が求めている「食」の変化や「<u>栄養</u>」の情報を「農」に還元することのできる専門人材が求められている。</u>また、少子高齢化の到来、食生活の乱れや生活習慣病の増加、高齢者の低栄養等の栄養・食生活の問題が山積し、その対策が喫緊の課題となっている。</p>

(是正事項) 農学研究科農学専攻 (M)

【教育課程等】

2. 審査意見1のとおり、養成する人材像及び3つのポリシーの妥当性について疑義があるため、教育課程全体が妥当であるとの判断をすることができないことから、「栄養」に係る資質・能力をすべての学生に対し求めるものであるのか、該当する一部の領域を専攻する学生に求めるものであるのかを明確にし、本課程の教育課程が適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的性が担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(対応)

上記の審査意見1-(1)に対する回答で説明した通り、本課程の養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに変更はない。それゆえに、本課程の教育課程についても変更はなく、カリキュラム・ポリシーに基づき、適切に編成されていると考えている。本課程の教育課程に変更はないが、それが体系的かつ適切に編成されていることについて、以下にて説明を行う。

本課程は「共通科目」「専門科目」「特別研究科目」の3科目区分で構成し、「専門科目」は4専門領域に区分し、その中の特論科目と演習科目において、学生の専攻分野の学修と研究を進める体系的なカリキュラムとしている。学生は、必修科目を含む「共通科目」、自身の専攻する分野の特論科目と演習科目、指導教員による特別研究科目を通じて、段階的に学修を深め研究を推進していく。

「専門科目」の4専門領域の特論・演習科目は、専攻する領域以外の領域の科目も履修できることとしており、自身の専門領域に閉ざされることなく、「食」と「農」における横断的で幅広い学修と研究が可能な教育課程としている。

「栄養」に係る資質・能力は、主に食品栄養科学領域を専攻する学生に対して求めるものであるものの、本課程の共通科目(必修)において「栄養」の内容が教授される点、食品栄養科学領域の専門科目は、選択科目として他の領域を専攻する学生の履修も可能であることから、他の領域の学生もその資質・能力を身につけることは可能な教育課程としている。

3ポリシーと教育課程の関係については、当初の申請において「設置の趣旨等を記載した書類」の添付資料2(M)、添付資料3(M)で示した通りであるが、当該添付資料を本紙に添付する【別添資料2】【別添資料3】。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15 ページ)

新	旧
<p>本課程は共通科目、専門科目、特別研究科目の3科目区分で構成し、専門科目は、農業生産科学領域、応用生物科学領域、食品栄養科学領域、食農ビジネス学領域の4専門領域に区分する。その中の特論科目と演習科目において、学生の専攻分野の学修と研究を進める体系的なカリキュラムとしている。学生は、必修科目を含む「共通科目」、自身の専攻する分野の特論科目と演習科目、指導教員による特別研究科目を通じて、段階的に学修を深</p>	<p>教育課程は、共通科目、専門科目、特別研究科目の3科目分野で構成し、専門科目は、農業生産科学領域、応用生物科学領域、食品栄養科学領域、食農ビジネス学領域の4領域を置く。</p>

め研究を推進していく。「専門科目」の 4 専門領域の特論・演習科目は、専攻する領域以外の領域の科目も履修できることとしており、自身の専門領域に閉ざされることなく、「食」と「農」における横断的で幅広い学修と研究が可能な教育課程としている。	
--	--

(是正事項) 農学研究科農学専攻 (M)

【入学者選抜】

3. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「7. 入学者選抜の概要」において、10月入学を実施することを示しているが、10月入学の学生に対する研究指導計画や教育課程を踏まえた履修モデル等のスケジュールが示されておらず、本課程に入学する全ての学生に対して、適切なカリキュラムが提供され、研究指導が実施されるのか判断することができない。このため、設置の趣旨等を記載した書類(資料)で示された「資料4 カリキュラムマップ及び履修モデル」との整合性を踏まえつつ、「資料6 研究指導・審査スケジュール」等の10月入学の場合の資料を示しながら、10月入学の学生に対する入学前から修了までの研究指導を含めた履修指導に当たっての体制や対応等について明確に説明すること。【研究科共通】

(対応)

本大学院では、10月入学を全ての研究科で実施しているため、それに倣い「10月入学を実施する」と記載した。審査意見を受け止め、改めて10月入学の学生の研究指導計画、履修モデル、審査スケジュール等を綿密に再検討した結果、本研究科において10月入学制度を実施することは、本研究科で目指す十分な教育効果、研究指導が達成できないという結論に至った。以上により、本研究科の入学者選抜の計画から「10月入学」を取りやめ、削除するものとする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (33～34 ページ)

新	旧
<p>(2) 入学者選抜の実施計画 本研究科の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに基づき、以下の通り計画する。</p> <p>【博士前期課程】 募集定員 20人 ①初年度 ・入学時期：令和6(2024)年4月 ・選抜時期：10月(学内進学者入試)および翌年2月(一般入試) ②2年目以降 ・入学時期：4月 ・選抜時期：前年度5月(学内進学者入試)、9月および2月(一般入試)</p>	<p>(2) 入学者選抜の実施計画 本研究科の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに基づき、以下の通り計画する。</p> <p>【博士前期課程】 募集定員 20人 ①初年度 ・入学時期：令和6(2024)年4月 ・選抜時期：10月(学内進学者入試)および翌年2月(一般入試) ②2年目以降 ・入学時期：4月および10月 ・4月入学選抜時期：前年度5月(学内進学者入試)、9月および2月(一般入試) ・10月入学選抜時期：当該年度5月</p>

(改善事項) 農学研究科農学専攻 (M)

【入学者選抜】

4. 設置の趣旨等を記載した書類 (本文) において、アドミッション・ポリシーとして「専門分野の研究に必要な外国語能力および他者との確かな議論ができるコミュニケーション能力を有している」ことを掲げていることから、入学者選抜において一定の外国語能力を評価するものと見受けられ、「(3) 出願資格」においては、「書類審査に必要な『TOEIC』スコアを提出できる者」としていることから、「社会人の取扱い」を含め、TOEIC スコアにより外国語能力を測ることとしていると見受けられる。一方で、「(4) 入学者選抜の方法等」の説明においては、一般入試の「書類審査」の項目として TOEIC スコアを求めることを示す表の注釈に「社会人は『TOEIC』スコアの提出は不要」としているほか、設置の趣旨を記載した書類 (資料) の資料 18「アドミッション・ポリシーと入学者選抜の方法の関連図」においても、一般入試の社会人・留学生の書類審査欄にも TOEIC スコアについては「社会人は不要」と記載されていることから、一定の外国語能力を持たない社会人の入学を想定していると思われ、そのような学生に対する学修支援についての説明もなく、アドミッション・ポリシーに基づく適切な入学者選抜等となっているか疑義がある。このため、アドミッション・ポリシーに整合した入学者選抜方法や出願資格等となっていることについて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

(対応)

審査意見にてご指摘の通り、社会人の志願者に対し TOEIC スコアの提出を免除することは、本研究科のアドミッション・ポリシーとの関係上不適切であるため、出願資格を改め、社会人においても『TOEIC スコアの提出を必要』と修正する【別添資料 4】。これにより、学内進学者を除く全ての志願者に対し TOEIC スコアの提出を求めるものとする。学内進学者については、本大学学部在学中の英語科目等の成績を参照することで、その外国語能力を測定し、アドミッション・ポリシーに合致した者かどうかを確認する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (36～37 ページ、資料 18)

新		旧													
<p>(4) 入学者選抜の方法等 農学研究科における選抜方法、試験科目は、以下の通りである。</p> <p>[博士前期課程] 学内進学者入試 (略)</p> <p>一般入試</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">書類審査</td> <td>①成績証明書</td> </tr> <tr> <td>②志望理由書</td> </tr> <tr> <td>③TOEIC スコア</td> </tr> </tbody> </table>		項目	内容	書類審査	①成績証明書	②志望理由書	③TOEIC スコア	<p>(4) 入学者選抜の方法等 農学研究科における選抜方法、試験科目は、以下の通りである。</p> <p>[博士前期課程] 学内進学者入試 (略)</p> <p>一般入試</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">書類審査</td> <td>①成績証明書</td> </tr> <tr> <td>②志望理由書</td> </tr> <tr> <td>③TOEIC スコア</td> </tr> </tbody> </table>		項目	内容	書類審査	①成績証明書	②志望理由書	③TOEIC スコア
項目	内容														
書類審査	①成績証明書														
	②志望理由書														
	③TOEIC スコア														
項目	内容														
書類審査	①成績証明書														
	②志望理由書														
	③TOEIC スコア														

学力試験	専門 科目	農業生産 科学領域	志望する分野（植物病理学、応用昆虫学、植物遺伝育種科学、作物科学、園芸科学、生産生態基盤学）に関連する問題を解答	学力試験	専門 科目 (※)	農業生産 科学領域	志望する分野（植物病理学、応用昆虫学、植物遺伝育種科学、作物科学、園芸科学、生産生態基盤学）に関連する問題を解答
		応用生物 科学領域	志望する分野（ゲノム生物学、植物分子生理学、植物環境微生物学、応用微生物学、動物機能科学、海洋生物学）に関連する問題を解答			応用生物 科学領域	志望する分野（ゲノム生物学、植物分子生理学、植物環境微生物学、応用微生物学、動物機能科学、海洋生物学）に関連する問題を解答
		食品栄養 科学領域	志望する分野（食品学・食品衛生学、調理・給食経営管理、代謝栄養学、臨床栄養学、公衆衛生・公衆栄養学、生化学・運動生理学）に関連する問題を解答			食品栄養 科学領域	志望する分野（食品学・食品衛生学、調理・給食経営管理、代謝栄養学、臨床栄養学、公衆衛生・公衆栄養学、生化学・運動生理学）に関連する問題を解答
		食農ビジ ネス学領域	領域共通問題および志望する系（農業経済・経営・政策系、食品産業・流通系、食農・循環型農業系）に関連する問題を解答			食農ビジ ネス学領域	領域共通問題および志望する系（農業経済・経営・政策系、食品産業・流通系、食農・循環型農業系）に関連する問題を解答
面接試問	個別面接試問			面接試問	個別面接試問		

※社会人は「TOEIC」スコアの提出は不要

(是正事項) 農学研究科農学専攻 (M)

【教員組織】

5. 教員資格審査において、「不可」や「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(対応)

今回、本課程 (M) の教員資格審査で科目担当が「不可」となった教員 (2名、4科目) は、ともに複数教員が担当する演習 (ゼミナール) 科目 (1名、「食品栄養科学演習Ⅰ」「食品栄養科学演習Ⅱ」と研究指導を行う特別研究科目 (1名、「農学特別研究Ⅰ」「農学特別研究Ⅱ」) であり、当該科目の特性上、また本課程の領域設定、教育課程及び研究指導体制から、「不可」判定となった教員の新規補充はなくとも支障がないことを確認しており、既存の専任教員で当該科目を担当する。「適格な職位・区分であれば可」の判定となった教員はいなかった。

(新旧対照表) 基本計画書「教育課程等の概要 (M)」(15～16 ページ)

新	旧
「食品栄養科学演習Ⅰ」: 教授 <u>8人</u>	「食品栄養科学演習Ⅰ」: 教授 <u>9人</u>
「食品栄養科学演習Ⅱ」: 教授 <u>8人</u>	「食品栄養科学演習Ⅱ」: 教授 <u>9人</u>
「農学特別研究Ⅰ」 : 教授 <u>29人</u>	「農学特別研究Ⅰ」 : 教授 <u>30人</u>
「農学特別研究Ⅱ」 : 教授 <u>29人</u>	「農学特別研究Ⅱ」 : 教授 <u>30人</u>

以上

審査意見への対応を記載した書類（6月）

資料目次 農学研究科農学専攻（M）

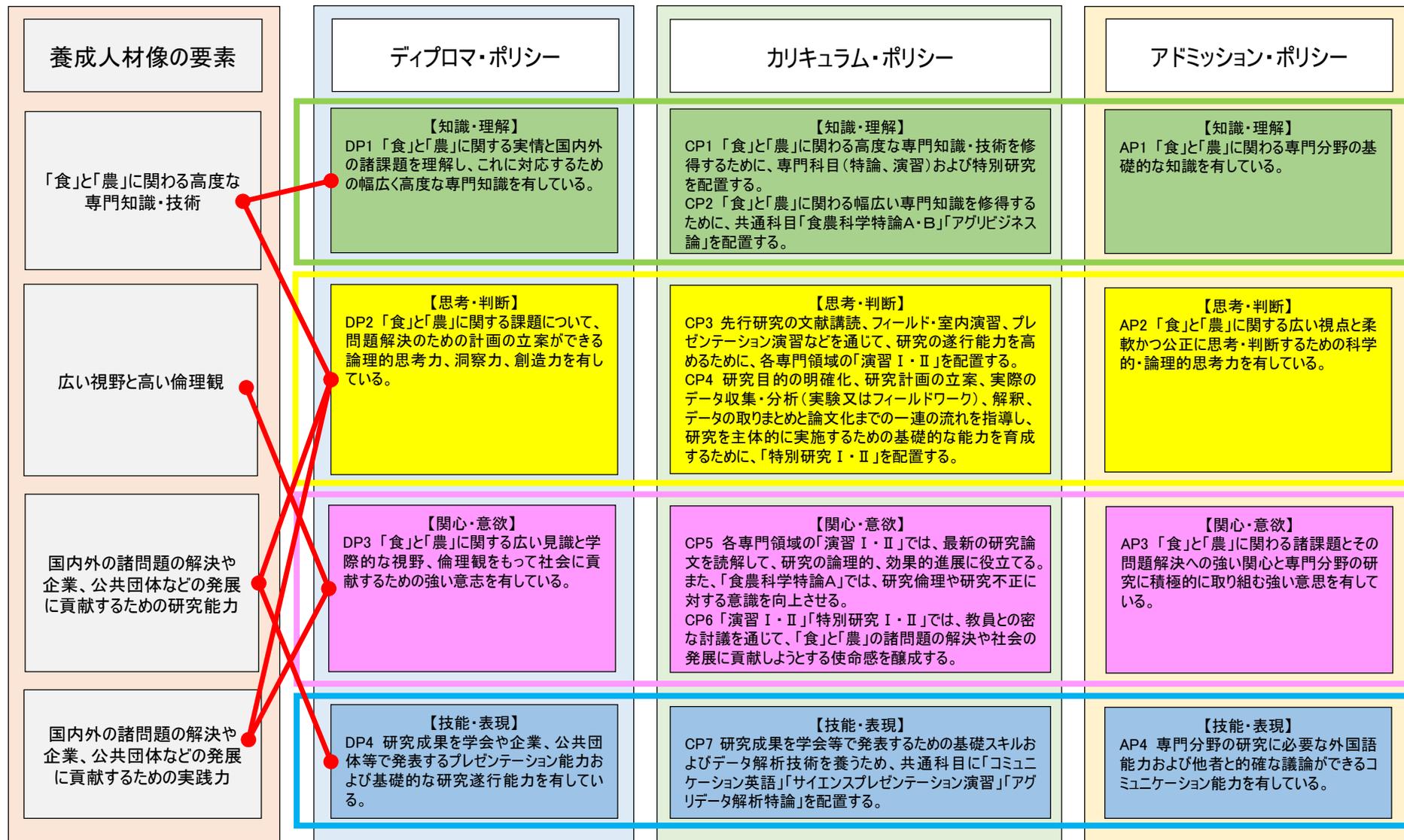
【別添資料1】	[資料1] 養成する人材像と3ポリシーの関係図（M）	P 2
【別添資料2】	[資料2] 教育課程とディプロマ・ポリシーの相関表（M）	P 3
【別添資料3】	[資料3] カリキュラムマップとカリキュラム・ポリシー、 ディプロマ・ポリシーの相関図（M）	P 4
【別添資料4】	[資料18] アドミッション・ポリシーと入学者選抜方法の関連図（M）	P 5

【別添資料1】

養成する人材像と3ポリシーの関係図【農学研究科農学専攻(M)】

【資料1(M)】

【博士前期課程 養成人材像】自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や企業、公共団体などの発展に貢献するための研究能力と実践力を備えた高度専門職業人を養成する。



【別添資料2】

教育課程とディプロマ・ポリシーの相関表【農学研究科農学専攻 (M)】

		M ディプロマ・ポリシー				
		DP1	DP2	DP3	DP4	
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	
●必修科目 ◇選択必修科目 (専攻する領域において必修)		「食」と「農」に関する実情と国内外の諸課題を理解し、これに対応するための幅広く高度な専門知識を有している。	「食」と「農」に関する課題について、問題解決のための計画の立案ができる論理的思考力、洞察力、創造力を有している。	「食」と「農」に関する広い見識と学際的な視野、倫理観をもって社会に貢献するための強い意志を有している。	研究成果を学会や企業、公共団体等で発表するプレゼンテーション能力および基礎的な研究遂行能力を有している。	
共通科目	● 食農科学特論A	◎	○	◎		
	食農科学特論B	◎	○	○		
	コミュニケーション英語				◎	
	サイエンスプレゼンテーション演習				◎	
	アグリビジネス論	◎	○	○		
	アグリデータ解析特論				◎	
専門科目	農業生産科学領域	生産生態基盤学特論	◎	○	○	
		作物科学特論	◎	○	○	
		園芸科学特論	◎	○	○	
		応用昆虫学特論	◎	○	○	
		植物病理学特論	◎	○	○	
		植物遺伝育種科学特論	◎	○	○	
		◇ 農業生産科学演習 I	○	◎	◎	◎
		◇ 農業生産科学演習 II	○	◎	◎	◎
	応用生物科学領域	植物分子生理学特論	◎	○	○	
		ゲノム生物学特論	◎	○	○	
		植物環境微生物学特論	◎	○	○	
		応用微生物学特論	◎	○	○	
		動物機能科学特論	◎	○	○	
		海洋生物学特論	◎	○	○	
		◇ 応用生物科学演習 I	○	◎	◎	◎
		◇ 応用生物科学演習 II	○	◎	◎	◎
	食品栄養科学領域	食品学・食品衛生学特論	◎	○	○	
		調理・給食経営管理特論	◎	○	○	
		代謝栄養学特論	◎	○	○	
		臨床栄養学特論	◎	○	○	
		公衆衛生・公衆栄養学特論	◎	○	○	
		生化学・運動生理学特論	◎	○	○	
		◇ 食品栄養科学演習 I	○	◎	◎	◎
		◇ 食品栄養科学演習 II	○	◎	◎	◎
	食農ビジネス学領域	農業経済・経営・政策特論	◎	○	○	
		食品産業・流通特論	◎	○	○	
		地域マネジメント特論	◎	○	○	
		食農・循環型農業特論	◎	○	○	
		食品マーケティング特論	◎	○	○	
		都市・農村コミュニティビジネス特論	◎	○	○	
◇ 食農ビジネス学演習 I		○	◎	◎	◎	
◇ 食農ビジネス学演習 II		○	◎	◎	◎	
特別研究	● 農学特別研究 I	○	◎	◎	○	
	● 農学特別研究 II	○	◎	◎	○	

◎ : DPの達成のために特に重要 ○ : DPの達成のために重要

カリキュラムマップとカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの相関図【農学研究科 農学専攻 (M)】

M ディプロマ・ポリシー	知識・理解 DP1 「食」と「農」に関する実情と国内外の諸課題を理解し、これに対応するための幅広く高度な専門知識を有している。	思考・判断 DP2 「食」と「農」に関する課題について、問題解決のための計画の立案ができる論理的思考力、洞察力、創造力を有している。	関心・意欲 DP3 「食」と「農」に関する広い見識と学際的な視野、倫理観をもって社会に貢献するための強い意志を有している。	技能・表現 DP4 研究成果を学会や企業、公共団体等で発表するプレゼンテーション能力および基礎的な研究遂行能力を有している。
--------------	--	---	--	---

M カリキュラム・ポリシー	知識・理解 CP1 「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得するために、専門科目(特論、演習)および特別研究を配置する。 CP2 「食」と「農」に関わる幅広い専門知識を修得するために、共通科目「食農科学特論A・B」「アグリビジネス論」を配置する。	思考・判断 CP3 先行研究の文献講読、フィールド・室内演習、プレゼンテーション演習などを通じて、研究の遂行能力を高めるために、各専門領域の「演習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。 CP4 研究目的の明確化、研究計画の立案、実際のデータ収集・分析(実験又はフィールドワーク)、解釈、データの取りまとめと論文文化までの一連の流れを指導し、研究を主体的に実施するための基礎的な能力を育成するために、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を配置する。	関心・意欲 CP5 各専門領域の「演習Ⅰ・Ⅱ」では、最新の研究論文を読解して、研究の論理的、効果的進展に役立てる。また、「食農科学特論A」では、研究倫理や研究不正に対する意識を向上させる。 CP6 「演習Ⅰ・Ⅱ」「特別研究Ⅰ・Ⅱ」では、教員との密な討議を通して、「食」と「農」の諸問題の解決や社会の発展に貢献しようとする使命感を醸成する。	技能・表現 CP7 研究成果を学会等で発表するための基礎スキルおよびデータ解析技術を養うため、共通科目に「コミュニケーション英語」「サイエンスプレゼンテーション演習」「アグリデータ解析特論」を配置する。
---------------	---	---	---	--

博士前期課程 カリキュラムマップ		CPと教育課程 の関連		1 年次										2 年次												
				前期					後期					前期					後期							
				科目名	単位	養成するDPの能力				科目名	単位	養成するDPの能力				科目名	単位	養成するDPの能力				科目名	単位	養成するDPの能力		
		DP1	DP2	DP3	DP4			DP1	DP2	DP3	DP4			DP1	DP2	DP3	DP4			DP1	DP2	DP3	DP4			
共通科目		食農科学特論A	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		食農科学特論B	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		コミュニケーション英語	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		アグリビジネス論	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目		生産生態学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		作物科学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		◇農業生産科学演習Ⅰ	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		植物分子生理学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		ゲノム生物学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		◇応用生物学演習Ⅰ	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		食品学・食品衛生学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		調理・給食経営管理特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		◇食品栄養科学演習Ⅰ	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		農業経済・経営・政策特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		食品産業・流通特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		◇食農ビジネス学演習Ⅰ	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		園芸科学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		応用昆虫学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
◇農業生産科学演習Ⅱ	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
植物環境微生物学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
応用微生物学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
◇応用生物学演習Ⅱ	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
代謝栄養学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
臨床栄養学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
◇食品栄養科学演習Ⅱ	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
地域マネジメント特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
食農・循環型農業特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
◇食農ビジネス学演習Ⅱ	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
植物病理学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
植物遺伝育種科学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
◇農業生産科学演習Ⅲ	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
動物機能科学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
海洋生物学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
◇応用生物学演習Ⅳ	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
公衆衛生・公衆栄養学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
生化学・運動生理学特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
◇食品栄養科学演習Ⅲ	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
食品マーケティング特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
都市・農村コミュニティビジネス特論	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
◇食農ビジネス学演習Ⅳ	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
●農学特別研究Ⅰ	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
●農学特別研究Ⅱ	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		

<CP>カリキュラム編成において特に重要: ◎、重要: ○

<DP>DP達成のために特に重要: ◎、重要: ○

アドミッション・ポリシーと入学者選抜方法の関連図【農学研究科 農学専攻(M)】

